

**令和4年度**

**区の施策検証等に向けた大田区区民意識調査**

**〔18歳以上の区民の方が対象〕**

**〔未就学児と小学生の保護者、中学生・高校生の区民の方が対象〕**

**【報告書】**

**令和5年2月**

**大田区**



# 目次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	3
2	調査の内容	3
3	調査の設計	4
4	報告書の見方について	5
5	標本誤差について	5
II	18歳以上の区民の方が対象 ～暮らし・保健・環境の分野など～	7
1	回答者の属性について	9
2	各種認知度について	16
(1)	「ワーク・ライフ・バランス」の認知度	16
(2)	「SDGs（持続可能な開発目標）」の認知度	18
(3)	「ヘルプカード」の認知度	20
(4)	「エセナおおた」の認知度	22
(5)	「女性のためのたんぽぽ相談」の認知度	24
(6)	「成年後見制度」の認知度	26
(7)	「ゆいっつ（大田区青少年交流センター）」の認知度	28
(8)	「ゆいっつ（大田区青少年交流センター）」で利用したい施設	30
(9)	「大田区DV相談ダイヤル」の認知度	31
(10)	「大田区立消費者生活センター」の認知度	33
(11)	「障害者差別解消法」の認知度	35
(12)	「社会的包摂」の認知度	37
3	生涯学習について	39
(1)	最近1年間の生涯学習の有無	39
(2)	最近1年間で行った生涯学習	41
(3)	生涯学習の活動場所	43
(4)	オンラインによる生涯学習の有無	45
(5)	生涯学習で身に付けた知識・技能・経験を活かしていること	46
(6)	生涯学習の状況	49
(7)	今後行いたい生涯学習	50
4	スポーツ・運動について	57
(1)	この1年間に実施したスポーツ・運動	57
(2)	この1年間のスポーツ・運動の活動頻度	60
(3)	運動をしなかった理由	62
5	文化・芸術について	64
(1)	来訪者が区の文化に接する機会	64
6	普段の生活について	66
(1)	普段の生活の状況	66

7	地域活動について	72
	(1) 近所の方への手助けとしてできること	72
8	健康づくりについて	75
	(1) 「はねびょん健康ポイント」の認知度	75
9	喫煙について	77
	(1) 喫煙状況	77
	(2) 喫煙の際に気をつけていること	79
	(3) 受動喫煙を経験した場所	80
	(4) 大田区が推進すべき、受動喫煙防止に向けた取組	83
10	医療について	86
	(1) かかりつけの医療機関	86
	(2) 「在宅医療」の認知度	88
11	災害時の対応について	90
	(1) 災害時の緊急医療救護所及び軽症者救護所の認知度	90
12	教育について	92
	(1) 教育の充実に向けて、大田区が重点的に取り組むべきこと	92
13	結婚について	95
	(1) 婚姻状況	95
	(2) 結婚に対する考え方	97
	(3) 子どもの人数	99
14	食品ロス・フードドライブについて	105
	(1) 「食品ロス」を減らすための取組	105
	(2) 「フードドライブ」への提供意向	108
	(3) 提供したいと思わない理由	110
15	地球環境について	112
	(1) 家庭で実施している環境配慮行動	112
	(2) 地球温暖化防止のために、関心のある実践行動や学んでみたいこと	115
16	行政経営について	118
	(1) 公民連携を推進していくべきか	118
	(2) 持続可能な自治体経営を進めるため、力をいれていくべきこと	120
	(3) 基金の確保及び運用をしていくべきか	123
Ⅲ	18歳以上の区民の方が対象 ～ 買い物・まちづくり・住まいの分野など ～	125
1	回答者の属性について	127
2	商店街について	134
	(1) 普段の買い物で利用する業態及び理由	134
	(2) 買い物をする時間帯	137
	(3) 商店街への印象	139
	(4) 商店街に必要なだと思う施設等	141
	(5) 「今後もずっと残ってほしい」と思う個人商店の有無	144

3	キャッシュレスについて	146
	(1) キャッシュレスでの支払い	146
	(2) キャッシュレスの支払いで利用している手段	148
	(3) キャッシュレスで支払いをする理由	150
	(4) キャッシュレスで支払いをしない理由	152
	(5) 今後、活用したいキャッシュレスでの支払いの手段	154
4	まちづくりについて	156
	(1) 活力・国際性のある都市づくりの進捗状況	156
	(2) 暮らしやすい都市づくりの進捗状況	158
	(3) 安全・安心な都市づくりの進捗状況	160
	(4) 環境に配慮した都市づくりの進捗状況	162
	(5) 生活環境の満足度	164
	(6) 身近な場所で水や緑に親しめる感覚	168
5	公共交通機関について	170
	(1) 公共交通機関の環境	170
	(2) 大田区内の公共交通網への満足度	172
	(3) 早期に実現してほしい大田区内の公共交通対策	174
	(4) 駅周辺のまちづくりによる地域の魅力向上及び活性化への期待度	177
6	空港臨海部について	179
	(1) 空港臨海部へのアクセス	179
	(2) 空港臨海部の魅力度	181
7	羽田空港跡地について	183
	(1) 「羽田空港跡地第1ゾーン整備事業」を認知したきっかけ	183
	(2) 「羽田イノベーションシティ」の認知度	185
	(3) 羽田イノベーションシティ・HICityの取組へ期待すること	187
	(4) 「羽田空港跡地第1ゾーン都市計画公園コンセプトブック」の認知度	190
	(5) 整備される公園でいたいこと	192
	(6) 「ソラムナード羽田緑地」の利用状況	194
	(7) 「ソラムナード羽田緑地」でいたいこと	196
8	公園について	198
	(1) 公園の利用状況	198
	(2) 公園の利用頻度	200
	(3) 公園を利用している主な時間帯	202
	(4) 公園のトイレの利用状況	204
	(5) 公園の利用目的	206
	(6) 利用したいと思う公園	208
	(7) 大田区の公園行政に期待すること	210
9	図書館について	212
	(1) 図書館等の利用頻度	212

(2) 図書館で主に利用する機能・サービス	214
(3) 図書館を利用しない理由	216
(4) 図書館に期待する機能・サービス	218
10 相談窓口について	220
(1) 大田区役所や区立施設等におけるバリアフリーや案内表示	220
11 バリアフリー・ユニバーサルデザインについて	222
(1) 「バリアフリー」の認知度	222
(2) 「ユニバーサルデザイン」の認知度	224
12 災害時の避難等について	226
(1) 「大田区防災アプリ」の認知度	226
(2) 「大田区防災アプリ」を認知したきっかけ	228
13 耐震改修について	230
(1) 住まいや所有建築物の耐震改修の状況	230
(2) 耐震改修を行っていない理由	232
IV 未就学児と小学生の保護者、中学生・高校生の区民の方が対象 ～ 居場所・自転車の利用についてなど ～	235
1 回答者の属性について	237
2 居場所について	243
(1) 「中高生ひろば」の認知度	243
(2) 「中高生ひろば」の利用状況及び利用意向	245
(3) 中高生世代の時に利用したい施設	247
3 家庭生活について	250
(1) コロナ禍での家事や育児の負担感	250
(2) 子育てに関する相談先の有無	252
(3) 「子ども家庭支援センター」の認知度	254
(4) 子ども家庭支援センターでの子どもからの相談受付の認知度	256
(5) 子ども家庭支援センターの事業で知っていること	258
(6) 子育て家庭や親子に対する支援の意向	260
4 災害時の避難等について	262
(1) 災害時の避難先の決定状況	262
(2) 災害時の避難先	264
(3) 「マイ・タイムライン」の認知度	266
(4) 「マイ・タイムライン」の作成方法	268
(5) 災害から自身を守るための取組	269
(6) 防災に関する情報の収集方法	271
(7) 参加したいと思う防災訓練の形式	273
5 自転車の利用について	275
(1) 「コミュニティサイクル」の認知度	275
(2) コミュニティサイクルの利用状況	277
(3) コミュニティサイクルを利用したことがない理由	279

(4) 自転車の利用状況 .....	281
(5) 自転車の施錠状況 .....	283
(6) 自転車を施錠しないときの状況.....	285
(7) 区営駐輪場で不便に感じていること.....	286
(8) サイクリングやサイクルスポーツの実施状況.....	288
(9) 守れていないと思う交通ルール.....	290
(10) 「自転車ナビマーク・ナビライン」の認知度.....	293
(11) 自転車の運転マナーを知る機会.....	295
(12) 損害賠償保険への加入状況 .....	297
(13) 損害賠償保険に加入していない理由.....	299
(14) 通勤・通学の移動手段 .....	300
6 子どもの学習について .....	302
(1) 将来への希望をもちながらの学びや成長.....	302
V 資料編 ～ 使用した調査票 ～ .....	305





# I 調査の概要



## 1 調査の目的

各種計画に掲げる施策の検証や、より効果的な政策立案に資することを目的とし、区内在住の区民を対象とした意識調査を実施する。

## 2 調査の内容

18歳以上の区民の方が対象 ～暮らし・保健・環境の分野など～	
(1) 回答者の属性について	(9) 喫煙について
(2) 各種認知度について	(10) 医療について
(3) 生涯学習について	(11) 災害時の対応について
(4) スポーツ・運動について	(12) 教育について
(5) 文化・芸術について	(13) 結婚について
(6) 普段の生活について	(14) 食品ロス・フードドライブについて
(7) 地域活動について	(15) 地球環境について
(8) 健康づくりについて	(16) 行政経営について
18歳以上の区民の方が対象 ～買い物・まちづくり・住まいの分野など～	
(1) 回答者の属性について	(8) 公園について
(2) 商店街について	(9) 図書館について
(3) キャッシュレスについて	(10) 相談窓口について
(4) まちづくりについて	(11) バリアフリー・ユニバーサルデザインについて
(5) 公共交通機関について	(12) 災害時の避難等について
(6) 空港臨海部について	(13) 耐震改修について
(7) 羽田空港跡地について	
未就学児と小学生の保護者、中学生・高校生の区民の方が対象 ～居場所・自転車の利用についてなど～	
(1) 回答者の属性について	(4) 災害時の避難等について
(2) 居場所について	(5) 自転車の利用について
(3) 家庭生活について	(6) 子どもの学習について

## 3 調査の設計

調査地域	大田区全域
調査対象	[18歳以上の区民の方が対象] 大田区内に居住する満18歳以上の男女個人（外国人を含む） [未就学児と小学生の保護者、中学生・高校生の区民の方が対象] 大田区内に居住する満12歳以上の男女個人（外国人を含む） 大田区内に居住する満12歳以下の方の保護者の方（外国人を含む）
標本数	[18歳以上の区民の方が対象] ～暮らし・保健・環境の分野など～：2,000人 [18歳以上の区民の方が対象] ～買い物・まちづくり・住まいの分野など～：2,000人 [未就学児と小学生の保護者、中学生・高校生の区民の方が対象] ～居場所・自転車の利用についてなど～：2,000人
抽出方法	層化無作為抽出法
調査方法	配布は郵送方式、回答収集は郵送又は電子申請方式
調査期間	令和4年11月10日～令和4年12月6日
有効回収数	[18歳以上の区民の方が対象] ～暮らし・保健・環境の分野など～：780件 (郵送547件+電子申請233件) [18歳以上の区民の方が対象] ～買い物・まちづくり・住まいの分野など～：792件 (郵送562件+電子申請230件) [未就学児と小学生の保護者、中学生・高校生の区民の方が対象] ～居場所・自転車の利用についてなど～：772件 (郵送464件+電子申請308件)
有効回収率	[18歳以上の区民の方が対象] ～暮らし・保健・環境の分野など～：39.0% [18歳以上の区民の方が対象] ～買い物・まちづくり・住まいの分野など～：39.6% [未就学児と小学生の保護者、中学生・高校生の区民の方が対象] ～居場所・自転車の利用についてなど～：38.6%

## 4 報告書の見方について

- (1) 図表中の「n」とは、その設問の回答者数を表している。
- (2) 調査結果の比率は、その設問の回答者数を母数として、小数点第2位を四捨五入して小数点第1位までを示しているため、その合計値が100%にならない場合がある。
- (3) 複数回答の設問は、回答比率の合計が100%を超える場合がある。
- (4) 属性別クロス集計等は、無回答を除いているため、回答者の合計が全体と一致しない場合がある。
- (5) 年代別は、18歳以上の区民の方が対象では男女ともに「18～19歳」の回答者数が少数であるため、「10・20代」とまとめて集計及び掲載している。未就学児と小学生の保護者、中学生・高校生の区民の方が対象では男女ともに「19～20歳」の回答者数が少数であるため、「19～29歳」とまとめて集計及び掲載している。
- (6) n=30未満は、比率が動きやすく分析には適さないため、参考として示すにとどめる。
- (7) 図表及び文章中では、選択肢を一部省略している場合がある。

## 5 標本誤差について

今回のような調査対象（母集団）の中から一部を抽出して行う標本調査では、全数調査（全ての人を調査）と比べ、調査結果に差が生じることがある。その誤差を標本誤差という。

標本誤差は、95%の信頼度で以下の式から得られる数値であり、真の値（全数調査をした場合に得られる数値）は標本調査で得られた結果に、この標本誤差を引いた値と加えた値の範囲内にあることとなる。

$$\text{標準誤差} = \pm 2 \times \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

N : 母集団の大きさ
n : 回答者数
p : 回答の比率 (%)

【各調査回答率における標本誤差早見表（信頼度95%で算出している）】

回答の比率 (p) 回答者数(n)	90%または 10%前後	80%または 20%前後	70%または 30%前後	60%または 40%前後	50%前後
1,000	± 1.9%	± 2.5%	± 2.8%	± 3.0%	± 3.1%
792	± 2.1%	± 2.8%	± 3.2%	± 3.4%	± 3.5%
780	± 2.1%	± 2.8%	± 3.2%	± 3.4%	± 3.5%
772	± 2.1%	± 2.8%	± 3.2%	± 3.5%	± 3.5%
500	± 2.6%	± 3.5%	± 4.0%	± 4.3%	± 4.4%

### 早見表の見方

たとえば、今回の「18歳以上の区民の方が対象～暮らし・保健・環境の分野など～」の回答者数(780人)を100%とする比率で、ある質問の回答が50%であった場合、大田区民(区内在住の18歳以上の方)のこの質問に対する回答は、46.5%～53.5%の間にあると考えられる。

